



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4574 号 2018.8.27 発行

発達障害、社会とつなぐ カードで伝える自分の症状 共同通信 2018年8月27日

「私はこだわりが強く、大きな音が苦手です」――。職場やプライベートで発達障害と明かすことができない人の周囲への公表を後押ししようと、自らも発達障害と診断された女性が、一目で他人に症状が伝わる「私の症状カード」を作った。7月から全国に配布を始め、社会生活を円滑に送る手助けになると期待されている。



発達障害の症状が一目で他人に伝わる「私の症状カード」
(宮崎菜摘さん提供)

考案したのは奈良県に住む宮崎菜摘さん(27)。大学卒業後に発達障害と診断された。就職にも苦勞したが、現在は広告代理店でグラフィックデザイナーと営業職を兼ねて働き、交流サイト(SNS)を通じて知り合った仲間たちと発達障害の啓発活動を行っている。

カードの使い方はシンプルだ。「感覚過敏」と「苦手なこと・困りごと」の二つの項目にそれぞれ「大きな音」「特定の触覚」「落ち着きがない」「こだわりが強い」などの選択肢があり、自分に当てはまるものを丸で囲む。発達障害に伴いやすい、うつなどの症状を手書きで記入する欄もある。

大きさは名刺大で、保護者が子供に持たせて学校生活で困った際に教職員に見せたり、被災時に避難所でボランティアやほかの避難者に示したりするなど、さまざまな場面を想定して宮崎さんがデザインした。

これまでに埼玉、東京、愛知、大阪、奈良、和歌山の各都府県の社会福祉協議会や支援団体にカード計3100枚を配布。ほかにも要望があり、順次、配布を進める。

宮崎さんは以前から、SNSや自助会を通じた発達障害者同士のつながりは強いが、内輪の付き合いで終わってしまうことに危機感を抱いていた。だが障害をいきなり社会全体に啓発するのは無理だと考え、「まずは身近な人に知ってもらうことから始めてみては」とカードを考案した。

目指すのは、発達障害だと告げても「そうなんだ。何が得意?」と周囲が当たり前になってくれるような世界だ。

湖水浴ぶかぶか楽しいね 高島で重い障害ある子どもと家族ら

中日新聞 2018年8月27日

心身に重い障害のある県内外の子どもたちと家族が二十五、二十六日、高島市安曇川町の旅館に宿泊し、バーベキューや湖水浴を満喫した。

企画したのは、自宅で暮らし、医療的ケアが必要な子どもと家族を支援するNPO法人「びわこファミリーレスパイト」(守山市)。昨年六月には、重い心臓病などを伴う染色体

異常「18トリソミー」の子どもと家族を対象に沖縄旅行を実施。その時の海水浴の経験も踏まえ、初めて企画した。

参加したのは、七家族二十二人と、医師や看護師らスタッフ十八人。初日の二十五日は、旅館「白浜荘」に宿泊し、バーベキューや花火を通じて交流を深めた。二十六日は、午前九時すぎから、旅館前の水泳場で、スタッフが付き添う中、気管切開した子らが浮輪や浮具を使って湖水浴を体験。降り注ぐ日差しに目を細めながら、時折押し寄せる波に気持ちよさそうに揺られていた。



湖水浴を楽しむ障害のある子どもと家族ら＝高島市安曇川町で

守山市金森町の主婦上田圭さん（31）は、先天性の難病「CFC症候群」を患う長男将義ちゃん（2つ）と、夫で公務員の浩之さん（35）と参加。初めて体験した湖水浴について「（将義ちゃんは）最初はすごく怖がっていたけど、体がぶかぶかするから、楽しそうだった」と話した。

愛知県幸田町の看護師夏目昌彦さん（36）は、18トリソミーの長女美祈（みのり）ちゃん（3つ）、妻で看護師の由子さん（40）と訪れ、「障害があると人目にも気になるが、大自然の中で普通に泳ぐことができている。何かあっても、医師や看護師がいて緊急処置もやってもらえるので、安心感もある」と笑顔を見せた。

同NPO法人の熊田知浩理事長（45）は「楽しんでもらえていたので良かった。来年以降も継続したい」と話した。十月には、守山市内で医療的ケア児や家族が楽しめるイベントを予定している。詳細は後日、ホームページに掲載する。（浅井弘美）

愛知) 障害のある子どもたち、サーフィン楽しむ 田原 朝日新聞 2018年8月27日
サーフィンに挑戦する子どもたち＝2018年8月26日午前11時19分、愛知県田原市仁崎町、連勝一郎撮影



知的障害や発達障害のある子どもたちに、サーフィンを楽しみながら海に親んでもらおうと、愛知県田



原市仁崎町の仁崎海水浴場で26日、サーフィン教室が開かれた。地元や名古屋市、岐阜県などから障害のある小学生から高校生とその兄弟ら18人が参加した。



全国各地のサーファーがボランティアで参加しているNPO法人「Ocean's Love（オーシャンズラブ）」が主催した。同法人は今年、北海道から宮崎県までの7カ所で、障害のある子どもたちを対象にサーフィン教室を開いている。

この日は青空のもと、子ども1人をサーファー4、5人で受け持ち、ていねいに指導していた。悪戦苦闘していた子どもたちが、ボードに立ち上がって、ポーズをとりながら砂浜に着くと、サーファーや家族らから、拍手や歓声がわき起こっていた。

参加した子どもの1人は「難しかったけど、すごく楽しかった」などと話していた。(連勝一郎)

「医療的ケア児」増加 保育園が見つからない

長崎新聞 2018年8月27日

出生して医療機関を退院後も、たんの吸引や経管栄養などの医療的なケアが日常的に必要な子ども「医療的ケア児」が、年々増加している。しかし、保育施設の受け入れは進まず、県内でも同施設に通っているケア児はごくわずかとみられる。あずけるところがなくつきっきりでケアをする保護者の負担は重く、国や自治体による体制整備が急務だ。

長崎市内に住む女性(34)は育休を取り、昨年8月に生まれた長男(1)の面倒を見て



ている。長男は気管を切開し、そこに管を差し込んでいる。女性は管に、吸引器とつないだカテーテルを挿入し、たんを吸引する。カテーテルを交換すると、口と鼻から唾液や鼻水を吸引。長男が起きている間は頻繁にケアをする必要があるため、女性はこれらの機器や手動式の人工呼吸器などをバッグに入れて持ち歩いている。気管に挿入した管からたんを吸引してもらおう子ども＝長崎市内

長男は予定日より2カ月早く生まれた。胎児に酸素や栄養を送る胎盤が急に剥がれたためだ。原因は不明。長男は救急搬送先の病院から、新生児集中治療室(NICU)がある長崎医療センター(大村市)にドクターヘリで運ばれ入院。一命は取り留めたが、脳性まひで人工呼吸器を付けざるを得なかった。

女性はいくつもの管につながれた長男と対面し「早く生んでしまっでごめんね」と涙が止まらなかった。長男は気管切開の手術をして次第に人工呼吸器が外れるようになり、今年4月、自宅に戻った。

育休期間がいったん8月に切れるため、長男を受け入れられる保育園を市役所に問い合わせた。看護師がいる園を紹介され、自宅周辺の10カ所ほどに電話をすると、障害を理由にほとんど断られた。「見学に来てください」と勧めてくれた園が1カ所だけあり、時々、園開放日に親子で訪れている。

育休は半年延長した。最長で来年夏まで取得できるが、自分の業務も担っている職場の同僚に対し申し訳ない気持ちになる。長男にとってもほかの子どもと一緒に過ごす方が発達の刺激になっていいと思う。だが保育園が見つかるめどはいまだ立たない。

◎県外の先進地 参考に

厚生労働省によると、2017年3月末現在、全国の保育所や認定こども園計292カ所が医療的ケア児計323人を受け入れ、県内は3カ所計3人にすぎなかった。

約15年にわたりケア児をみてきた長崎市の訪問看護ステーション鳴見の代表看護師、松島由美さんは「子どもの世話があるため働きたくても働けない母親が多い。仕事を辞めざるを得ず、家計が苦しくなった人もいます」と話す。

全国の医療的ケア児数 (厚生労働科学研究報告)



県南部に本年度、ケア児を初めて受け入れた保育園がある。ただ保護者や主治医らと事前に何を確認すべきか県内では分からなかったため、厚労省が17年度に始めた保育支援



モデル事業に応募している京都市など県外の先進地を参考に、園の看護師が急きょ必要書類を作成。主治医の意見書やケアの実実施計画書など11種類に及んだ。

園長は「多くの園が受け入れてあげたいと思っているが、現状ではどこまでケアをすべきなのか、万が一事故が起きたときの責任はどうなるのかなどが明確でなく、二の足を踏んでいるのではないかと指摘する。

京都市で医療的ケア児が保育所を利用する際に必要な書類の一部

京都市は今年3月、ケア児が保育所などを利用する際の実施計画書を作成する児童に関する保育所長等による第1回の協議会を開催した。幼保総合支援室によると、保護者から申し込みがあった場合、医師、看護師、関係部署の職員で「検討会議」を開催。提出された書類や事前の面談などを基に協議し、その結果を踏まえ市長がケアが実施可能かどうか決定する。認められれば、保育所は主治医の指示書などを基にケアの実実施計画書などを作成し、保護者は承諾書を保育所と市に提出する。

要綱は、ケアは看護師らが実施すると規定しているが、保育所への看護師配置は法令で義務付けられていない。今年6月現在、京都市内で保育時間にケアを受けている子どもは11人いるが、幼保総合支援室は「医療的ケア児による利用が毎年あるかどうか分からず、保育所は看護師を確保すべきかどうか判断が難しい。3人を受け入れている保育所もあるが、病院経営の法人が運営している」と説明する。

厚労省は今後、各自治体のモデル事業の結果公表を検討。さらに18年度の調査研究事業で有識者らの検討会を設け、受け入れ体制のガイドラインを取りまとめるという。

訪問看護ステーション鳴見の松島さんは「子どもの障害を自分の責任と思う母親も少なくない。その上ずっと子どもの面倒を見ているため、心身のストレスが非常に大きい。ほっとひと息つけるよう、あずけられる場所が必要」と話した。

手話禁止、苦しい思い 滋賀・聾話学校卒業生の戦争体験



京都新聞 2018年08月26日

自作の絵を基に体験を語る堀さん(草津市大路2丁目・県立聴覚障害者センター)

滋賀県立聾(ろう)話学校の卒業生が幼少期の戦争体験や思い出を語る学習会が25日、草津市大路2丁目の県立聴覚障害者センターであった。耳が聞こえない70～90代の5人が手話や絵を使って戦時下の苦労や暮らしぶりを紹介した。

堀長左衛門さんは、空腹を満たすためカエルやマムシを捕まえた様子や、聾話学校内の防空壕(ごう)に逃げ込む様子を描いた自作の絵を披露した。「戦闘機が見えると山の中に隠れ、去るとすぐに畑に戻って作業した」と振り返った。

学校ではチャイムの代わりに太鼓をたたき、空襲警報が鳴った時も太鼓による空気の振動を感じて避難した。徳田千鶴子さんは防空壕で不安と退屈さに襲われながら過ごしたといい「いったこめを、音がしないよう一粒ずつ食べた」と話した。

当時、相手の口元を見て会話を理解する口話教育が進められたため手話が禁止され、苦しい思いをしたことも語り合った。夏原太治男さんは「手話は救いの母」と語り、手話への理解が一層深まる社会を願った。学習会は県手話通訳問題研究会の主催で、約50人が

参加した。

寸劇で在宅ケア地域住民が学ぶ 津で催し

中日新聞 2018年8月27日

在宅ケアをテーマにした寸劇も披露されたイベント＝津市一志町田尻の一志高岡公民館で



自宅で医療や介護のサービスを受ける在宅ケアを学ぶイベントが二十六日、津市一志町田尻の一志高岡公民館であり、地域住民ら約百五十人が参加した。

同市内で高齢化が目立つ三地域の保健や医療、福祉の施設職員らでつくる「美杉・白山・一志 顔の見える会」などが二〇一四年から毎年開いており、一志地域では初めて開いた。

見える会のメンバーは、病気を発症した高齢者が在宅ケアを利用するまでの一連の流れを寸劇で紹介した。各業種の専門職員ら九人が登壇し、劇の登場人物らを例に利用方法や地域の体制について話した。

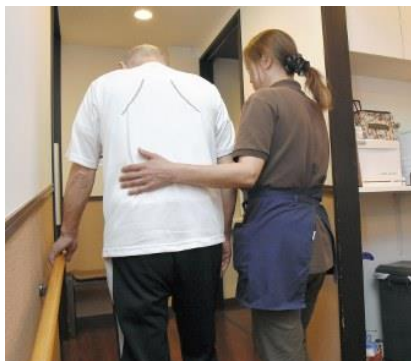
県立一志病院の職員は「本人や家族、ケアマネジャーが退院後の生活を早くから話し合っ準備するのが大切」と指摘。介護老人保健施設の職員は「リハビリのために理学療法士や作業療法士が自宅を訪問する制度がある」と紹介した。

登壇者らはかかりつけ医や利用者にあったデイサービスを見つけることの重要性も強調し、参加者らはメモをとるなど熱心に耳を傾けていた。（鈴木雄大）

はたらく 介護、高齢者の性に向き合う

毎日新聞 2018年8月27日

デイサービスの利用者を誘導する介護職員（右）＝埼玉県川口市のいきいきらいふSPA川口WEST店で2018年8月1日、矢澤秀範撮影



<くらしナビ ライフスタイル>

東京都内に本社を置く高齢者介護サービス事業者が施設にアダルトグッズを導入した。利用者から職員へのセクシュアルハラスメントが問題となり、国が対応に乗り出す中、「高齢者の性」に向き合う取り組みが業界に一石を投じている。

●アダルトグッズで

入浴に特化したデイサービスを全国展開する介護事業者「いきいきらいふ」（東京都台東区）は今春から順次、各店舗で自慰行為用のアダルトグッズの販売を始めた。自宅に持ち帰り、自分で性欲を処理してもらう。職員は性的介助はしない。

大画面のテレビを見て入浴を待つ高齢者たちが、何気ない会話に花を咲かせていた

「病棟歌」 障害者と高らかに...心通わせ半世紀 再春荘病院

熊本日日新聞 2018年8月27日

病棟歌「ぼくらの夢」ができるきっかけを作った元職員の田中美代子さん（左）。歌い続けてきた保護者の飯法師なるみさん（中央）と細野ツギさん＝合志市

合志市須屋の熊本再春荘病院で重症の障害者が療養している「つくし病棟」に、半世紀近く歌い継がれている病棟歌がある。生活のほぼ全てに介助がいる障害者本人はほ



とんど歌うことはできないが、行事のたびに療育指導士や保護者らが歌い、本人たちと心を通わせてきた曲だ。

つくし病棟は1968年、家庭で療養していた障害児を病院でケアしようと開設された。現在は肢体不自由と知的障害が重複する6～68歳の45人が療養を続けている。

病棟歌ができたのは開設の3年後。療育指導の担当職員だった田中美代子さん（76）＝同市＝が、知人の教諭に頼んで作ってもらった。当時の病棟は10歳前後の子どもが大半。田中さんは「歌えなくても、子どもたちは何度も聞くことで笑顔を見せたり、目を輝かせたりした。音楽で心が一つになる感じだった」と振り返る。

タイトルは「ぼくらの夢」。歌詞は3番まであり、「冬の寒さに負けないで／大地をけって伸びてくる／春のつくしが唄 [うた] うのは／ぼくらの夢の歌なんだ」と生命力のたくましさを歌い上げる。

一方、職員の異動などもあり、病棟歌を歌える人や歌う機会は年々減少。46歳の長男が療養している飯法師なるみさん（74）＝熊本市北区＝は「誕生会や遠足、節分などの行事で私たち保護者も一緒に歌ってきた。この伝統が消えていくのは寂しい」と話す。

女性の声を防災に反映、ネットワーク発足し交流会…「避難所のトイレ改善を」

読売新聞 2018年8月27日

女性の視点を東京の防災に生かそうと、「女性防災ネットワーク・東京」が発足し、初めての交流会が21日、東京都内で開かれた。防災活動の普及啓発などに取り組むボランティアや医師ら女性7人が中心となって呼びかけた。

災害時に避難所のトイレが不衛生で使いにくかったり、授乳や着替えの場所がなかったりして女性は困ることも多い。約100人が参加した交流会では5人が防災の課題について述べ、脳性マヒを持つ五位渕真美さんは「避難所には障害者用トイレが少ない上、男女が一緒」と改善を訴えた。

呼びかけ人で、5児の母の吉田穂波・神奈川県立保健福祉大教授は「災害で女性が困らないようにすることは、配慮が必要な人や男性にとってもプラスになる。東京の防災を多くの人をつなぐりで充実させていきたい」と話している。

今後も月1回程度、交流会を開き、意見を交換する。参加申し込みは同ネットワークのホームページ (<https://gdn-tokyo.localinfo.jp/>)で。



タクシーが客乗せ自動運転 世界初、都内で実証実験スタート

産経新聞 2018年8月27日

車の自動運転技術を手掛けるベンチャーのZMP（ゼットエムピー、東京）とタクシー大手の日の丸交通（東京）は27日、一般客を乗せた自動運転タクシーの実証実験を東京都内で始めた。タクシーが自動運転で公道を営業走行するのは世界で初めてという。平成32年をめどに無人の完全自動運転での商用化を狙う。

自動運転タクシーの実験区間

自動運転タクシーをめぐるのは、米国企業が公道での実験を重ねて先行する。日本でも3月に横浜市の公道で

実験が行われたが、今回は実際に客を乗せて営業走行することで、実用化に向けた課題を検証する。

センサーなどZMPの自動運転システムを搭載したミニバンを使い、東京都心の大手町と六本木の商業ビル間約5・3キロを1日4往復する。発進や停止、右左折などは自動だが、安全のためドライバーと補助者が同乗する。

ロボットが夜間の見回り 福祉施設で実証試験（静岡）



福祉新聞 2018年08月27日 編集部
ロボットが形状や温度で人だと認識できるか試験した
施設で夜間の見回りをするロボットの実証試験が、社会福祉法人天竜厚生会（静岡県、山本たつ子理事長）で、今月末まで行われている。建物内を自走しながら徘徊はいかい者や転倒者を検知し、呼吸の状態から体調の異常を判断して職員に知らせる機能を搭載しているのが特徴だ。

ロボットは、来年4月の事業化に合わせて開発協力した同会に導入することが決まっており、夜間配置職員に対する負担軽減が期待される。

試験は、開発を手掛けた神奈川工科大の三枝亮准教授を中心に、同会の障害者支援施設「厚生寮」で7月31日から8月31日まで行われている。

試験では、倒れている人に対して、搭載した複数のカメラを使って形状と温度を計測。人だと認識できるか、胸部の動きで呼吸の異常を判断できるかといった項目をチェックした。ロボットは、障害者施設のほか、高齢者施設や病院などへの導入を想定している。

人がゆっくり歩く速度で自走するため危険性はなく、仮にぶつかったとしても柔軟な素材が衝撃を吸収してロボットも安全に停止する。顔の部分に当たるモニターには目や口が表示され、まばたきをしたり簡単な会話ができたりするため利用者にも好評だ。

販売価格は250万円程度を予定している。三枝准教授は「夜間の見回りをロボットが代替できれば、その分の人員を日中に回せる」とロボット導入のメリットを説明した上で「次の介護報酬改定で、自走型の見回りロボットが加算対象になるよう国に訴えていきたい」と話した。

見学した高柳弘常務理事は「導入後しばらくは様子を見ることになると思うが、職員が慣れて理想的なパフォーマンスを発揮してくれれば、負担軽減につながるのではないかと期待を寄せた。

社説：ゲーム障害 治療と対策進めねば

信濃毎日新聞 2018年8月27日

県内の多くの学校で2学期が始まった。夏休み明けの時期、インターネットやテレビのゲームを休み中にやりすぎて生活が乱れ、登校できなくなる子どもが近年、少なくないようだ。「ゲーム障害」が心配になる。

世界保健機関（WHO）が、ギャンブル依存症などと同列の疾患に位置づけ、「国際疾病分類」の改訂版に新たに記載した。スマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、若者を中心に各国で深刻化している。来年の総会での採択を経て2022年に発効する。

ゲームをする頻度や時間を抑えられない。ほかのことを差し置いて最優先する。学業や仕事、生活に支障を来しているのにやめられない。その状態が1年以上続くと診断基準に当てはまる。

ゲームを長い時間やっている人が全て該当するわけではない。WHOは愛好者全体の2～3%程度と見ている。ただ、愛好者は全世界で20億人を超すとされ、ごく一部でも膨大な数になる。

日本でも厚生労働省の研究班が13年の時点で、ゲームを含むネット依存の疑いがある成人は420万人余、中高生はおよそ52万人と推計している。国立病院機構久里浜医療センター（横須賀）が開設しているネット依存症の専門外来は、受診する人の大半がゲームにのめり込んだ未成年だという。

昼夜が逆転して不登校や引きこもりになる。抑うつ状態に陥って食事もとろうとしない。やめさせようとする家族に暴力を振るう…。10代、20代の人生を基礎づくる時期にはとりわけ、ゲーム障害が取り返しのつかない弊害をもたらす恐れがある。

詳しい原因や発症の仕組みは分かっていない。国内には、相談できる医療機関も専門医もまだ少ない。WHOによる認定を機に、診療体制の拡充を進め、治療法の確立に結びつけたい。政府は、患者の数や日常生活にどんな影響が及んでいるかを調査する方針だ。実態を正確につかんで、予防や支援の手だてを具体化していく必要がある。

依存症は、本人の意志の弱さを責めても克服につながらない。自覚して抜け出すのが難しい子どもの場合はなおさら、周囲の大人の支えが重要になる。

娯楽としてゲームをすること自体を否定すべきではない。認知症の予防などに活用できる有用性も備えている。それだけに、ゲーム業界もまた、依存の深刻な実態に向き合っ対策や支援のあり方をともに考えていく責任がある。

評・坂井豊貴（経済学者・慶応大教授） 『市場って何だろう』 松井彰彦著

読売新聞 2018年08月27日



市場原理の善きかたち

基本的に、市場というのは自分で意思決定して、取引をするところだ。そこで一般に想定されているのは、自立した個人である。だが著者は、市場こそが個人を自立させるのだという。精神論ではない。市場は個人に、多くの依存先を与えることで、自立を可能とさせるのだという。

依存先が一つだけだと隷従した状態になりやすい。たとえば取引先が一つだけだと、不利な条件を拒否しにくい。いまの勤務先がブラックでも、他に転職先がなければ、辞める決断がしにくい。複数の取引先があること、他の選択肢があること。市場を上手く使うと「複数の依存先」が用意できる。それにより人は依存的状況を脱し、自立を獲得する。

むろん、その阻害要因は多々ある。統計的差別はそのひとつだ。たとえば、これまでの女性の離職率が高いからという理由で、男性が優先して採用される。あるマイノリティー属性をもつ人の働きぶりが平均的に悪かったから、そのマイノリティーはもう採用しない。その結果、女性や、そのマイノリティー属性をもつ人は、職を得る意欲や、自己投資の意欲が減退してしまう。統計的差別それ自体が、差別の根拠を生みだしているのだ。このとき市場は人に上手く自立を与えられない。

著者は「世界は心によって作られる」との仏陀の言葉を引く。複数の人間の心の作用の結果として、ある社会の状態が生まれる。差別や障害も、物理的な状態ではなく、社会の状態である。たとえば車椅子利用者にとって、東京の電車通勤は非常に難しい。だがこの場合、障害なのは、不自由な足ではなく、混雑という社会の状態ではないのか。そのように考える著者は、自身の大学の研究室で、三人の車椅子利用者を雇用しているという。在宅勤務でデータ処理などを任せているそうだ。

本書はいわゆる市場原理主義の著作ではない。だが読者は本書のなかに、市場原理のもっとも善きかたちを見つけることができるだろう。

◇まつい・あきひこ＝1962年生まれ。東京大教授。専門はゲーム理論。著書に『慣習と規範の経済学』など。ちくまプリマー新書 820円

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

